

2. 交流圏の概念

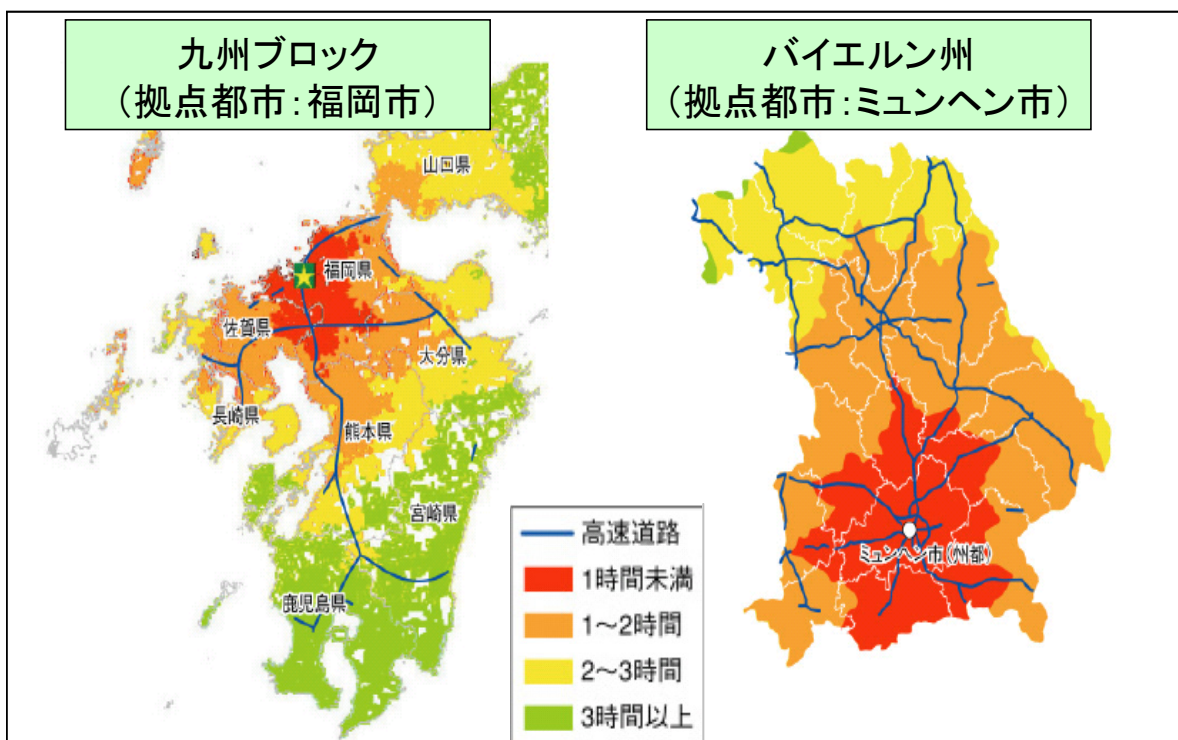
2.1 交流圏の概念

本研究における交流圏とは、「等時間圏域」、すなわち「ある地点(起点)における、一定時間内(または一定の一般化費用)に到達可能な範囲」と定義している。

また、60分以内に到達できる範囲を「60分交流圏」、60分交流圏内の人口の総和を「60分交流圏人口」、などと定義する。これは、人々が交流可能な圏域のことであり、圏域の大きさ(60分圏や180分圏等)により、商圈や日帰り圏等に相当する。

たとえば、**図-2.1**は、九州ブロックとほぼ同一の面積を有するドイツのバイエルン州との時間圏域を比較した図である。九州ブロックは、福岡を起点に、バイエルン州は、ミュンヘン市を起点として、それぞれ、等時間圏域を算定している。この算定結果より、ミュンヘン市は、バイエルン州のほぼ全域を3時間内で連絡することが可能であるのに対し、九州ブロックは3時間以上かかるエリアが存在することがわかる。すなわち、ドイツ・バイエルン州に比べ九州ブロックは拠点都市を中心とした交流圏が小さいといえる。

また、九州でも、高速道路が伸びている地域には、3時間以内の等時間圏域(180分交流圏)が伸びており、交流圏には、道路網(高速道路網)が関係していることがわかる。



「人口減少時代の国土ビジョン 新しい国のかたち『二層の広域圏』(森地 茂『二層の広域圏』形成研究会 編著)を基に作成

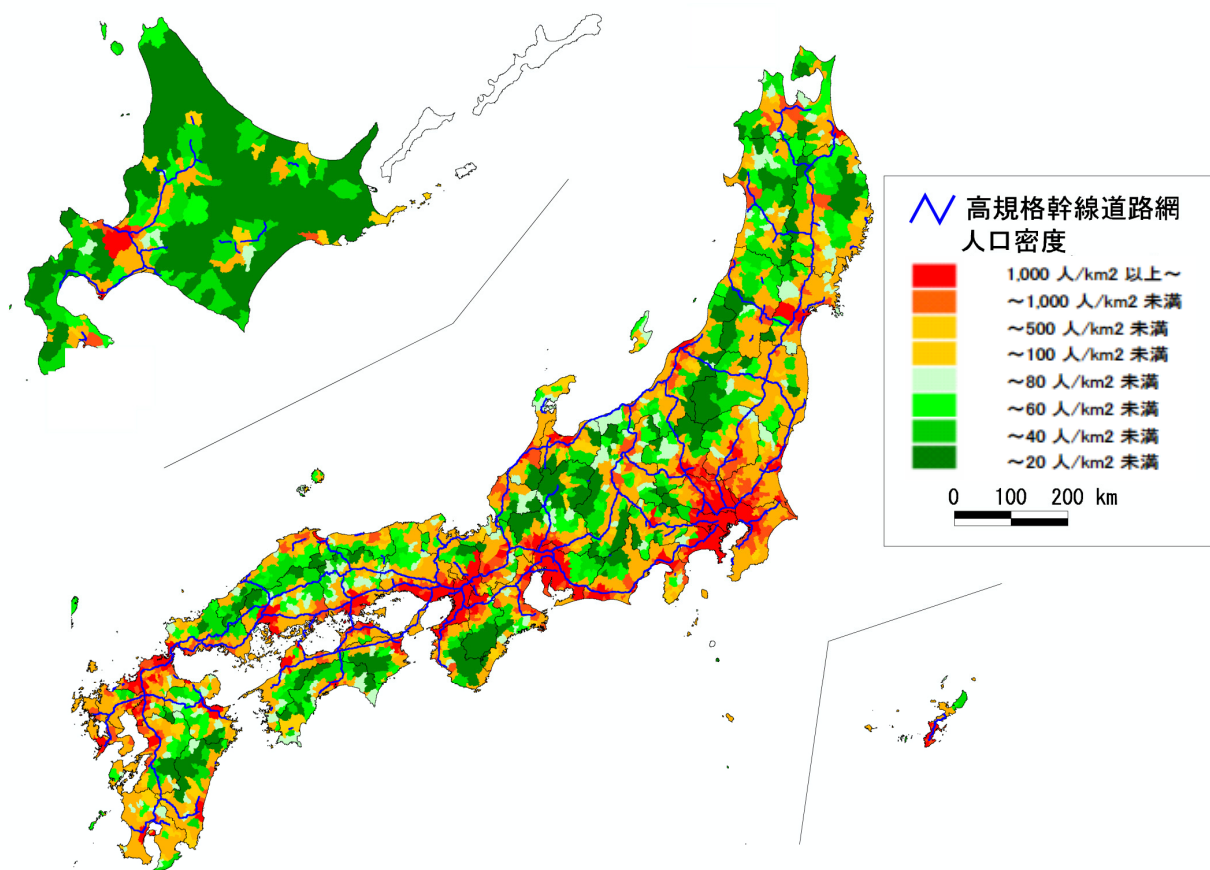
図-2.1 諸外国との交流圏の比較

交流圏は、ある起点から一定時間内に到達できる終点の範囲を、道路や鉄道等の交通ネットワークのデータを用い、経路探索計算することにより、求めることができる。特定の拠点を起点としたものはこれまで計算されてきたが、本研究では、全国に網羅的に起点を置いて交流圏を計算する方法をまず開発し、任意の地点の交流圏の大きさを比較分析することを試みたものである。

3. 市町村単位の交流圏

3.1 旧市町村単位で見た全国の交流圏の試算⁴⁾

そこでまず、整理された統計データを入手しやすく、計算数も比較的容易に行うことができる市町村単位ベースで交流圏・交流圏人口を試算した例を以下に示す。なお、近年市町村合併が進んでいるが、平成12年(2000年)時点での市町村を単位としており、人口データは平成12年国勢調査のものを用いた。まず、交流圏人口と実際の人口密度分布を比較することができるように、人口密度データを地図上に表現し、高規格幹線道路網も併せて地図上に表現した(図-3.1)。人口密度の比較的高い拠点地域は全国に存在しており、高規格道路網は、それらの拠点を結んでいる様子がわかる。



注:2000年国勢調査結果を基に作成

図-3.1 全国市町村の人口密度分布